

日本地下水学会より研究奨励賞を拝受

論文「蛍光染料の濃度低下に寄与する地下水中微生物を特定」

「確かな技術で、社会づくりに貢献する」をミッションに据える株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング（本社：東京都台東区、代表取締役社長：遠藤一郎、以下 ATK）では、大切にしている価値観（バリュー）の一つとして、「品質・技術力で勝る会社になる」を掲げ、社員は自己研鑽に励んでいます。

2025 年 10 月 16 日～18 日に開催された「日本地下水学会 2025 年秋季講演会 大垣大会」（主催：公益社団法人日本地下水学会）において、ATK の杉山歩が研究奨励賞を拝受しました。同賞は「期間内に発行された会誌に掲載された論文のうち、将来を嘱望される 35 歳以下の正会員もしくは準会員が筆頭著者である優れた論文」を対象とするものです。

対象となった論文の概要は、以下の通りです。

タイトル	蛍光染料の濃度低下メカニズムの解明と濃度低下に対する対処方法の提案
筆頭著者	杉山歩 ATK 原子力バックエンド事業部（発表時は一般財団法人電力中央研究所）
共著者	中田弘太郎（電力中央研究所） 長谷川琢磨（電力中央研究所）
掲載誌	地下水学会誌 2023 年 65 巻 3 号 p.201-230（2023 年 8 月 31 日発行）
抄録	蛍光染料は、水の動きを把握するためのトレーサーとして広く利用されているものの、地下水中に添加した際、著しく濃度低下するケースが確認されている。本報は、種々の水試料に蛍光染料を添加した際の蛍光染料の濃度変化について調査し、濃度変化が生じた場合そのメカニズムに関する情報を得ることを目的に実験を行った。その結果、蛍光染料の保存性は、フルオレセインナトリウム（ウラン）やナフチオン酸ナトリウム（NAP）で低く、その主な要因が地下水中の微生物の影響であると考えられた。得られた情報から蛍光染料を保存性トレーサーとして用いるための留意点についてまとめ、蛍光染料の濃度分析用の試料の適切な保存方法を提案した。

当論文は、J-SATAGE にて公開しています。

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jagh/65/3/65_201/_article/-char/ja/

以上